

研究計画の概要

研究課題名 アジアに展開する感染症研究拠点を活用した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する緊急研究

研究代表者 森田公一 長崎大学熱帯医学研究所 所長/教授

研究目的

令和元年12月に中国・武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)はアジア地域を中心に感染拡大を続け、令和2年1月30日には世界保健機関(WHO)により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」が宣言された。我が国においても、1月15日に初の感染者が確認され、その後も感染者は増加の一途を辿っていることから、COVID-19の制御に向けた対策が急務となっている。

本研究では、COVID-19の制御に向けて、アカデミアにおいてこれまで蓄積してきた知見や人材を集約し、アジア地域に形成された感染症研究拠点を活用することにより、直ちにアジア地域のCOVID-19に関する情報や検体の収集を図り、国内感染症研究の中心的機関である国立感染症研究所との連携の下、COVID-19に関する基礎的研究を強力に推進する。

調査内容

(1) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の制御に向けた知見の収集

アジア地域に感染症研究拠点を有する国内の6大学の研究者が協力し、アジア地域におけるCOVID-19に関する情報や検体の収集・分析を行い、新型コロナウイルスの流行実態を把握するとともに、ウイルスの伝播様式や重症化要因の解明を目指す。また、流行実態や宿主動物(コウモリなどの野生動物)に関する疫学調査を実施する。これにより得られた知見は、国内感染症対策に資するよう速やかに国立感染症研究所へも共有する。

(2) 知見を踏まえた新型コロナウイルス検出技術の確立と評価の実施

アジア地域の感染症研究拠点で得られた知見を踏まえ、COVID-19に関する医薬品等の開発研究に資する基盤技術の確立を目指す。具体的には、新型コロナウイルスの効率的な分離・培養法を確立するとともに、迅速診断法の開発に資する新型コロナウイルスの抗体・抗原・遺伝子の検出技術の確立を目指す。これらの技術は、各研究拠点を活用することにより地域横断的にその感度や特異性を検証する。また、本研究の成果については国立感染症研究所とも共有し、厚生労働省や日本医療研究開発機構(AMED)の事業で実施する早期に実用化が可能な研究フェーズに提供する。

研究経費 5,000万円

研究組織

(研究代表者)

氏名	所属・職名	(専門分野)	役割分担
森田公一	国立大学法人長崎大学熱帯医学研究所・所長/教授	(ウイルス学)	全体の統括

(研究分担者)

氏名	所属・職名（専門分野）	役割分担
長谷部太	長崎大学熱帯医学研究所・教授（ウイルス学）	研究の総括、 ベトナムのウイルス情報、患者情報及び疫学情報の取得、各アジア地域の情報集約、 重症化要因の解明、 ウイルスの分離及び培養法の確立、 迅速診断技術の確立、 新型コロナウイルス等の保有動物調査
安田二郎	長崎大学熱帯医学研究所・教授（ウイルス学）	簡易迅速なウイルス遺伝子検出技術の確立、 新型コロナウイルス等の保有動物調査
井上真吾	長崎大学熱帯医学研究所・准教授（ウイルス学）	抗体・抗原検出系技術開発及び性能評価
櫻井康晃	長崎大学熱帯医学研究所/感染症共同研究拠点・助教（ウイルス学）	抗体検出系技術開発及び性能評価
川口 寧	東京大学医科学研究所・教授（ウイルス学）	中国の新型コロナウイルス情報及び患者情報の取得
松浦善治	大阪大学微生物病研究所・教授（ウイルス学）	タイ国の新型コロナウイルス情報及び患者情報の取得、 診断技術の性能評価、 新型コロナウイルス等の保有動物調査
押谷 仁	東北大学大学院医学系研究科・教授（ウイルス学）	フィリピンの新型コロナウイルス情報及び患者情報の取得、 診断技術の性能評価、 新型コロナウイルス等の保有動物調査
森 康子	神戸大学大学院医学研究科 附属感染症センター・教授（ウイルス学）	インドネシアの新型コロナウイルス情報及び患者情報の取得、 診断技術の性能評価、 新型コロナウイルス等の保有動物調査
齋藤玲子	新潟大学大学院医歯学総合研究科・教授（ウイルス学）	ミャンマーの新型コロナウイルス情報及び患者情報の取得、 診断技術の性能評価、 新型コロナウイルス等の保有動物調査